

ぶんきょうく こ

どくしょかつどう

すいしんけいかく

そあん

# 文京区子ども読書活動推進計画（素案）

れいわ ねん がつ  
令和 7 年 1 0 月

ぶんきょうく  
文京区

# もくじ

## 1 はじめに

## 2 アンケートの結果

### 2-1 小学生・中学生・高校生

### 2-2 小学生・中学生・高校生

### 2-3 幼稚園や保育園に通っている子どものおとうさん・おかあさん

## 3 計画の5つの目標

### 目標1 発達段階に応じた読書機会の提供

### 目標2 多様な子どもたちへの読書機会の提供

### 目標3 家庭・地域・学校・関係機関における読書環境の整備と読書活動の充実

### 目標4 子どもの読書活動の意義や大切さの普及・啓発

### 目標5 地域団体等との協働による読書活動の活性化

## 4 まとめ

# 1 はじめに

文京区では、子どもたちの読書活動を応援するために、「文京区子ども読書活動推進計画」という、これから約5年間の計画を立てる予定です。この計画は、令和8年度から令和12年度までの5年間、進められています。

## ● 計画をつくる目的（何のために？）

この計画は、子どもたちがもっと本と出会い、読書を楽しめるようにするためにものです。これまでにもいろいろな取り組みをしてきましたが、社会の変化に合わせて、例えば、目の不自由な子どもも読書を楽しめるようにしたり、デジタルで読書ができるようにしたりといった新しい課題にも対応できるように考えています。

## ● 対象年齢（だれのために？）

この計画は、0歳からおよそ18歳までの子どもたちを対象にしています。

## 2 アンケート結果

計画を立てる前に、文京区では子どもたちの読書についてアンケートをとりました。

本を読むことが「好き」という人の割合が、小学生と高校生は80% (100人中80人) 以上、中学生は73% (100人中73人) 以上でした。

また、本を読むことが「きらい」「にがて」という子どもたちに、読書をするチャンスを増やしたり、楽しいと思ってもらえる工夫が必要であることがわかりました。

アンケートに答えてくれたみなさん、ありがとうございました。

## 2-2 アンケート結果 (小学生・中学生・高校生)

### Q 読書の量と読む場所

#### ● 1か月に読んだ本の数

- ・ 小学3年生は平均12.8冊
- ・ 中学2年生は平均5.9冊

- ・ 小学5年生は平均9.3冊
- ・ 高校2年生は平均3.8冊

#### ● 本を読まない子どもの割合

1か月に1冊も本を読まなかった子の割合は、小学3年生で100人のうち10人、小学5年生で100人のうち14人、高校2年生ではおよそ半分となりました。

#### ● どこで本を読んでる？

どの年齢の子どもも、「自分の家」で読むことが一番多かったです。次に多かったのは、小学3年生、5年生、中学2年生は「教室」で、高校2年生は「区立図書館」でした。学校図書館も、多くの子どもたちが利用している場所です。

## 2-1 アンケート結果 (小学生・中学生・高校生)

### Q 読書をしない理由

読書をしなかった人に理由を聞きました。一番多かった理由は次のとおりです。

#### ● 小学3年生

「外遊び、スポーツの方が好き」

#### ● 小学5年生、中学2年生、高校2年生

「テレビやゲームの方が好き」

#### ● ほかにも、このような意見がありました

「読書がきらい」「読みたい本がない」「勉強が忙しい」という声も聞かれました。特に中学2年生では、「読書がきらい」が35.9%、高校2年生では、「読みたい本がない」が27.0%と高くなっています。

## 2-3 アンケート結果 (おとうさん・おかあさん)

### Q おうちでの読書のようす

#### ● おうちでの読み聞かせのようす

幼稚園や保育園の子どもたちの保護者に聞くと、93.9%のおうちで読み聞かせをしていることが分かりました。多くの保護者が「読み聞かせは子どもの成長に役立つ」と感じています。一方で、「ほとんどしていない」というおうちが6.1%ありました。

#### ● おうちにある本の数

「絵本が51冊以上」というおうちが44.2%あり、多くの家庭で絵本がたくさんあることがわかりました。

## 2-4 アンケート結果のまとめと課題

アンケート結果から、文京区の子どもたちの読書活動には、つぎのような課題が見えてきました。

### ●読書が好きな子も、きらいな子も楽しめるように

読書がきらい、読みたい本が見つからないという子どものために、何をすればよいか考える必要があります。

また、読書が好きな子どもたちがこれからも読書を楽しめるように、工夫していく必要があります。

### ●だれもが読書をしたいときにできるように

子どもたちがいつも過ごす様々な場所で、読書ができる環境を整える必要があります。

この計画では、これらの課題を解決するために、5つの目標を立てて、いろいろな取り組みをしていきます。

けいかく

もくひょう

# 3 計画の5つの目標

文京区子ども読書活動推進計画では、子どもたちが読書をもっと楽しめるように、つぎの5つの大きな目標に取り組みます。

## 目標1 発達段階に応じた読書機会の提供

赤ちゃんからおとなになるまで、ひとりひとりの成長に合わせて、本と出会う機会をつくります。

## 目標2 多様な子どもたちへの読書機会の提供

目の不自由な子どもや、外国語を話す子どもなど、様々な子どもたちが読書を楽しめるようにします。

## 目標3 家庭・地域・学校・関係機関における子どもの読書環境の整備と読書活動の充実

家、学校、図書館、児童館など、子どもたちが多くの時間を過ごすいろいろな場所に本をならべ、読書したいときにできるようにします。

## 目標4 子どもの読書活動の意義や大切さの普及・啓発

おうちの方や周りのおとなに、読書の大切さを伝えて、子どもたちと読書をもっと応援してもらえるようにします。

## 目標5 地域団体等との協働による子どもの読書活動の活性化

地域のいろいろな団体、大学、本屋さんなどと協力して、子どもの読書活動をもっと活発にしていきます。

もくひょう はったつだんかい おう どくしょきかい ていきょう  
**[目標1] 発達段階に応じた読書機会の提供**

取り組み名	内容
ブックスタート事業の充実 じぎょう じゅうじつ	生後4か月の赤ちゃんに、絵本が入ったブックスタートパックをプレゼントして、親子のふれあいを通して本との出会いのきっかけを作ります。
おはなし会や読み聞かせなどの本に触れる機会の提供 ほん ふ きかい ていきょう	子どもの想像力や豊かな心を育むため、幼稚園や保育園で、おはなし会や絵本・紙芝居の読み聞かせを積極的に取り入れます。
ブックリストの作成 さくせい	年齢に合わせたブックリスト（おすすめの本のリスト）を作成し、「読みたい本がない」という声にも応えます。高校生向けのリストも新しく作ります。
中学生・高校生を対象としたサービスの充実 ちゅうがくせい こうこうせい じゅうじつ	中学生・高校生が本と出会えるように、図書館の中高生コーナーを魅力的にしたり、ホームページを充実させたりします。

もくひょう たよう こ どくしょきかい ていきょう

## [目標2] 多様な子どもたちへの読書機会の提供

取り組み名	内容
読書をすることが難しい子ども向けの本の充実	点字図書や録音図書、大きな文字の本、布の絵本などのいろいろな本や電子書籍も増やします。
外国語図書の整備・充実	外国語を話す子どもたちのために、外国語の本もたくさん集めます。
外国語を話す子どもの読書活動の推進	やさしい日本語で書かれた本を用意したり、外国語でのおはなし会を行ったりして、外国語を話す子どもたちが読書に親しめるよう支援します。
入院中の子どもへのサービスの充実	入院している子どもたちが読書から遠ざかることのないよう、本を貸し出したり、おはなし会をしたりします。

もくひょう かてい ちいき がっこう かんけいきかん どくしょかんきょう せいび どくしょかつ  
**[目標 3] 家庭・地域・学校・関係機関における読書環境の整備と読書活動の充実①**

取り組み名	内容
としょかん がっこう しせつ 図書館と学校や施設との れんけい しえんたいせい じゅうじつ 連携・支援体制の充実	としょかん がっこう ようちえん ほいいくえん ほん か だ 図書館から学校、幼稚園、保育園などにたくさんの本を貸し出した としょかん しょくいん かい い り、図書館の職員がおはなし会に行ったりします。
あか ほごしゃ としょ 赤ちゃんと保護者が図書 かん りょう かんきょう 館を利用しやすい環境づ くり	おやこ たの あんしん としょかん つか 親子で楽しく安心して図書館を使えるように、赤ちゃん向けの絵本 いくじ かん ほん ようい としょかん や育児に関する本を用意したり、図書館のレイアウトやサービスを くふう 工夫したりします。
でんしょせき かつよう 電子書籍の活用	つか ほん よ タブレットなどを使ってインターネットからも本が読めるようにし ます。
がっこう どくしょじかん 学校における読書時間の かくほ 確保	どくしょ しゅうかん み 読書をする習慣が身につくよう、朝読書や読書週間など、読書を行 じかん もう う時間を設けます。

もくひょう かてい ちいき がっこう かんけいきかん どくしょかんきょう せいび どくしょかつ

[目標 3] 家庭・地域・学校・関係機関における読書環境の整備と読書活動の充実②

取り組み名	内容
がっこう どくしょかつどう 学校における読書活動の すいしん 推進	さくせい ブックリストを作成したり、イベントをしたり、読書による探究 かつどう はっぴょう きかい もう 活動や発表の機会も設けたりします。
しら がくしゅう しえん 調べ学習への支援	がっこう としょかん ちいき としょかん こ 学校の図書館や地域の図書館で、子どもたちの調べ学習をお手伝 いします。
がっこう としょかん ししょ は 学校の図書館へ司書を派 けん きのう じゅうじつ 遣して機能を充実	がっこう としょかん ほん くわ としょかんいん ししょ こ 学校の図書館で、本に詳しい図書館員（司書）が、子どもたちの どくしょ がくしゅう てつだ 読書や学習をお手伝いします。
がっこうとしょかんしりょう じゅうじつ 学校図書館資料の充実	こ きょうみ も 子どもたちが興味を持つような、最新の本やいろいろなジャンル ほん しら がくしゅう ひつよう ほん けいかくつき の本、調べ学習に必要な本を計画的にそろえていきます。

もくひょう こ どくしょかつどう いぎ たいせつ ふきゅう けいはつ  
**[目標4] 子どもの読書活動の意義や大切さの普及・啓発**

取り組み名	内容
ほごしゃ けいはつ 保護者への啓発	ほごしゃ たい こ この ほん よ ほん しょうかい こうえんかい 保護者に対して子どもの好む本や読んでほしい本の紹介や講演会 おこな どくしょ よ き たいせつ つた などを行い、読書や読み聞かせの大切さを伝えます。
こ けいはつ 子どもへの啓発	どくしょ たの たいせつ こ つた 読書の楽しさや大切さを子どもたちに伝えます。また、イベント おこな どくしょ きょうみ かんしん たか やコンテストなどを行って、読書への興味・関心を高めます。
プレママ・プレパパへの けいはつ 啓発	かた む よ き うた これからママ、パパになる方に向け、読み聞かせやわらべ歌など、 こ たの どくしょ たいせつ つた 子どもと楽しむ読書の大切さを伝えます。
どくしょかつどう かん 子ども読書活動に関する じょうほうまどぐち 情報窓口（ホームページ じゅうじつ）の充実	としょかん じょうほう ほん どくしょ かん 図書館ホームページに、イベント情報、おすすめの本、読書に関 けいさい くみん やくだ じょうほう ていきょう するコラムなどを掲載して、区民にとって役立つ情報を提供しま す。

もくひょう

ちいきだんたいとう

きょうどう

どくしょかつどう

かっせいか

## [目標5] 地域団体等との協働による読書活動の活性化

取り組み名	内容
どくしょかつどう じゅうじつ 読書活動を充実させるための じんざいいくせい 人材育成	としょかん がっこう せんせい こ どくしょ ひつよう 図書館や学校の先生たちが、子どもたちが読書に親しむために必要 ちしき み けんしゅう おこな な知識やスキルを身につけるため、研修を行います。
ちいきだんたいとう れんけい 地域団体等との連携	ちいき だんたい だいがく ほんや きょうりょく ちいきぜんたい 地域のいろいろな団体、大学、本屋さんなどと協力して、地域全体 こ どくしょ おうえん で子どもたちの読書を応援します。
としょかん いく 図書館ボランティアの育 せい きょうりょく 成・協力	としょかん 図書館のボランティアさん（ライブラリーパートナー）を育成して、 よ き おこな 読み聞かせやイベントのサポートを行います。
がっこうとしょかん 学校図書館ボランティア かつどう しえん 活動の支援	がっこうとしょかん ほごしゃ ちいき じゅうみん みな 学校図書館のボランティアさんなど、保護者や地域の住民の皆さん がっこうとしょかん うんえい さんか こ どくしょ おうえん が学校図書館の運営に参加して、子どもたちの読書を応援します。

## 4 まとめ

これらの具体的な取り組みを通して、**0歳から18歳までの子どもたち**が、本と出会い、読書を楽しめる環境を整えることを目指すとともに、文京区の子どもたちが本とたくさん出会い、読書の楽しさを感じて、未来を豊かに生きていくための力を育めるように、区全体で応援していきます。